

	ア サ ギ マ ダ ラ Parantica sita 													
種名														
分類	マダラチョウ科													
形態	前翅長 43～65mm。前翅の地色が黒褐色、後翅が赤褐色（葡萄色）、半透明の水色（浅黄色）の斑紋をもつ。胴体は黒褐色。♂は後翅内縁付近に、黒褐色の性標をもつ。													
分布	北海道の利尻島でも記録があり、本州東北地方では夏にたいい成虫が見られる。移動性が強く、翅に印をつけたマーキング調査では、種子島から福島県および三重県、九州から奄美大島への移動などが確認されている。													
出現期	本州中部の暖地では、4～5月に第1回目の成虫が見られ、6～10月にかけて、1～2回世代を交替する。一部は移動個体となり、北上するとみられる。気温が低下すると、南の温かい地方に飛んでいくと思われる。おもに幼虫と蛹で越冬する。八重山諸島では周年成虫がいる。													
生態	成虫は市街地や高山帯にも姿をみせる。発生地は、樹林のあるところが多い。ゆるやかに飛び、ほとんどはばたかず、風に乗って高く舞い上がる。ヒヨドリバナやアザミ類などで吸蜜、地上で吸水することもある。													
食樹	ガガイモ科のキジョラン、サクララン、ツルモウリンカなど。													
幼虫 (幼生期)	卵は白色の砲弾型で、高さ1.8mm。若齢幼虫は食草に丸い穴を開けて食べる。終齢(5 齢)幼虫は、体長 40mm。体の前・後部に各1対の長い肉質突起をもつ。黄色、水色、白色の鮮やかな斑点模様がある。蛹は垂蛹、細長いだるま型。体長 23mm、光沢のある緑色。													
出現時期	(月)	—	—	—	4	5	6	7	8	9	10	—	—	
その他														
カテゴリー	指標種													
参考文献： 検索入門 渡辺康之著 チョウ														